

愛知県自然環境保全地域の概要

- ① 蓮華寺寺叢（あま市）
- ② 田之土里湿原（豊田市）
- ③ 小牧大山（小牧市）
- ④ 青鳥山（吉良町）
- ⑤ 吉祥山（豊橋市、新城市）
- ⑥ 伊熊神社社叢（豊田市）
- ⑦ 小堤西池（刈谷市）
- ⑧ 大沼（豊根村）
- ⑨ 白鳥山（設楽町）
- ⑩ 茅原沢（岡崎市）
- ⑪ 寺町田湿地（武豊町）
- ⑫ 山中八幡宮（岡崎市）
- ⑬ 海上の森（瀬戸市）
- ⑭ 東谷山（名古屋市）
- ⑮ 砦山（豊根村）



愛知県自然環境保全地域は、自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例によって指定されるもので、すぐれた天然林や貴重な動植物の自生地など貴重な自然環境を有する地域を、私たちの共通の財産として、将来にわたって保全しようとするものです。

① 蓮華寺寺叢 所在地：あま市蜂須賀

—木曾川の自然堤防と常緑広葉樹林—

面積(ha) 昭和50年1月31日指定

特別地区	普通地区	合計
0.32	1.89	2.21

蓮華寺は、木曾川の砂の堆積により形成された自然堤防の小丘に立地しており、今でも自然堤防の名残を見ることができます。

これらの小丘は、古くから安定した生活空間として利用されていたようで、濃尾平野の自然堤防上では、縄文時代から弥生時代にかけての遺跡が多数発見されています。

蜂須賀という地名は、弘法大師が毒蜂を封じ塚を築いたことに由来したと言われていています。蜂須賀小六正勝のゆかりの地としても有名です。

古くからそのままの姿で守られてきた蓮華寺寺叢は、この地方が開発される以前の本来の自然植生を見ることができる森となっています。各地で開発が進む中、このような環境は貴重な存在となっています。

林内には、イチイガシ、シラカシ、クロガネモチ等の高木が自生し、樹齢も高く老木となっています。



- 1：自然堤防の小丘
- 2：全景
- 3：蓮華寺
- 4：常緑広葉樹林

② 田之士里湿原

—中間湿原特有の生態系—

所在地：豊田市御内町

昭和50年1月31日指定

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
0.58	2.20	2.78

もともと田之士里は「田の尻」という意味で、稲が栽培できる尻、すなわち限界の地ということから名づけられたものです。

愛知県には、湿地・湿原が多数分布しています。田之士里湿原は、比較的標高が高く夏でも涼やかな地域にあり、湿地・湿原の種類では、泥炭湿原の中でも中間湿原に分類されます。

泥炭湿原の多くは、農地開発等により消滅したり、規模が縮小するなどして、小規模なものが多いことから、森林化への遷移が懸念されています。

このような場所に特徴的な植物で、ハンゴンソウやゴマナ、アヤメ科の原種ノハナショウブなどを見ることができます。

泥炭湿原は、泥炭の蓄積が進み涵養する水位が低下する過程により低層湿原、中間湿原、高層湿原に区分されます。

低層湿原は地下水、高層湿原は雨により涵養され、中間湿原は移行段階にある湿原です。



1：全景 2：流入部とオタカラコウ
3：ウメバチソウ 4：保全地域看板
5：コウチハカエデ

③ 小牧大山

—典型的な暖帯性植生シイ・カシ類の常緑広葉樹林—

所在地：小牧市大字大山

昭和51年10月15日指定

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
9.32	36.74	46.06

小牧大山は尾張東部丘陵に位置しており、山麓の江岸寺、中腹の稚児神社、大山廃寺跡を連ねる谷間は、日本の典型的な暖帯性植生である、シイ・カシ類の常緑広葉樹林が安定して生育しています。どんぐりの成るシイ・カシの他、ツバキやサカキなど常緑で葉に光沢のある小型の葉を持った樹木から成っています。

このような身近な環境ではありますが、都市化や人工樹林化が進んだ今となっては、神社や寺院の社叢として断片的に残されるのみの状態となっており、愛知県内に残された数少ないまとまった常緑広葉樹林のひとつです。

大山廃寺跡は、白鳳時代に創建され室町時代まで続いた山岳寺跡で、国指定史跡(昭和4年指定)です。寺域は広く、山林の中に堂宇が建てられたと見られる多数の平地が分布しており、信仰の地としてこの場所が守られてきたことが伺えます。



1：全景
2：ツブラジイ林
3：大山廃寺塔跡

あお とり やま
④ 青鳥山 所在地：幡豆郡吉良町大字小山田
 —ペグマタイトの露頭が見られる特異な地質—

昭和51年10月15日指定

面積 (ha)	特別地区(全域)
	1.62

青鳥山自然環境保全地域は、三河湾に面した吉良町にある標高80m程の青鳥山にあります。

この地域の南側には中央構造線が走っています。中央構造線の内側には領家変成帯が、外側には三波川変成帯が分布しており、青鳥山の地質は領家変成帯に含まれます。

この地域は、主として青黒く割れにくいハンレイ岩類からなっていますが、北部には領家変成岩類もみられ、その間に領家閃緑岩類が貫入するという特異な地質構造を持っています。

さらに注目されるのは、ハンレイ岩を貫くペグマタイトと呼ばれる巨晶花崗岩もみられ、その中には電気石、ザクロ石、白雲母などの結晶がみられることです。

白雲母はきらきらと輝くことからキララと呼ばれ、古くはこの地で採取されたこともあるようで、吉良という地名の由来ともいわれています。

ハンレイ岩は、青鳥山の麓にある八幡神社の石垣に使われており、容易に観察することができます。



- 1：全景
- 2：ハンレイ岩を貫くペグマタイト
- 3：石積み
- 4：八幡神社の石垣
- 5：青鳥山からの景色

きち じょう さん
⑤ 吉祥山 所在地：豊橋市石巻萩平野町字吉祥山
 新城市大字一鍬田字吉祥山
 —中央構造線の三波川変成帯の露頭—

昭和51年10月15日指定

面積 (ha)	普通地区(全域)
	20.15

吉祥山は、豊川下流の左岸、豊橋市と新城市の境にある標高382mの独立した山です。

吉祥山の北側には中央構造線が走っています。この中央構造線に沿って内側に領家変成帯が、外側に三波川変成帯が分布しており、吉祥山はこの三波川変成帯を特徴づける特異な地質がみられる地域になっています。

三波川変成帯は、熱よりも圧力の影響を強く受けてできた結晶片岩からなっており、吉祥山は山麓部を除いて、その一種である角閃石片岩で構成されています。

山頂部や北尾根にある祠付近で灰色を帯びた濃緑色の角閃石片岩の露頭を観察することができます。また露頭では鉱物が層状に重なり合っている片理構造をみることができます。

山頂下の北尾根にある祠付近には、胸高直径1mを超えるスダジイ等の巨木林が小規模ながらみられ、この地域ではシイ群落がこのような標高でも成立すること示しています。



- 1：スダジイの大木
- 2：祠と角閃石片岩
- 3：山頂付近の角閃石片岩
- 4：吉祥山全景

⑥ 伊熊神社社叢

所在地：豊田市伊熊町

昭和52年4月22日指定

—モミ・カシの針広混交林の天然林—

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
2.63	2.12	4.75

伊熊神社は、豊田市旭地区の南部に位置し、標高563mの山頂にあります。

三河地方の山林はスギ・ヒノキの植林がすすみ、殆どが人工林となっています。

しかし、信仰の対象である社寺林は人手を加えることがなかったため、自然の状態が良く保たれています。伊熊神社社叢もその一つで、この地域の自然植生を知る手がかりとなる貴重なものとなっています。

伊熊神社社殿の周辺の林は、高木層に常緑広葉樹のシラカシ、アラカンなどカシ類の暖帯生植生に混じって、針葉樹のモミや落葉広葉樹のイヌシデ、コアサダ、ウワミズザクラなど温帯生植生も見られます。

また、亜高木層にはユズリハ、カゴノキなど暖帯生の常緑樹が見られます。また、ビナンカズラなど暖帯性のつる植物も見られます。

このように、この地域の代表的な植生であるモミ・カシ類を主とした暖帯、温帯の植生を併せ持つ針広混交林となっています。

また、陸貝ではツムガタモドキギセル、ミカワギセルなどが見られます。



- 1：お社とモミ
- 2：針広混交林
- 3：コアサダ
- 4：モミジガサ
- 5：全景

⑦ 小堤西池

所在地：刈谷市井ヶ谷町小堤西1

昭和53年3月24日指定

—県の花カキツバタが自生する池—

面積 (ha)

特別地区(全域)
5.83

小堤西池は、刈谷市最北部、丘陵部のふもとにある水田かんがい用の池です。

かつて、この地方の池や湿地に自生していた水生や湿性の植物が残っています。

小堤西池はカキツバタの自生地として昭和13年に国の天然記念物に指定されています。他には京都府、鳥取県にもありますが、この地の群落が最も規模が大きいものです。

カキツバタは小堤西池を代表する植物で、中部より北の地域で池沼の岸辺や湿地に育成していましたが、開発により姿を消し、野生のものは殆ど残っていません。この地は、県内では数少ない自生地の一つとなっています。

なお、小堤西池は、池の底に堆積した花粉の分析結果から、約6,300年前から池沼的な環境にあったと考えられるという研究報告があります。



- 1：全景
- 2：天然記念物標示
- 3：湿地
- 4：カキツバタ
- 5：ワレモコウ

1、4刈谷市教育委員会提供

おお ぬま
⑧ 大沼 所在地：北設楽郡豊根村富山字大沼

—暖帯のカシ林から温帯のブナ林まで—

昭和53年3月24日指定

面積 (ha)

特別地区 (全域)
15.13

大沼は、北設楽郡豊根村富山地区を流れる漆島川右岸の急傾斜地にある天然林です。大沼を含む周囲の地域の広葉樹林がスギ・ヒノキの人工林に変わる中、この地域は広葉樹二次林がそのまま残されました。

大沼は標高差が350mあり、この標高差の影響で植生の変化に富んでおり、これらの植物に依存した特色ある昆虫類も生息しています。

大沼の標高は500mから850mで、中部地方の森林帯としては暖温帯と冷温帯の境界にあります。このため、暖帯カシ林の要素から温帯ブナ林の要素までの様々な種をみることができ、植生が垂直方向に分布するその変化を見ることが出来る貴重な場所となっています。

標高700mより下ではウラジロガシ等の常緑広葉樹、クマシデ・トチノキ等の落葉樹、モミ等の針葉樹の混交林となっています。

標高700m付近より上部には、ブナを主とする広葉樹林となっていて、県内では、ブナの天然林が残されている数少ない地域の一つとなっています。

昆虫では、ブナ林の指標昆虫であるフジミドリシジミ、ウラジロガシ林の指標昆虫であるヒサマツミドリシジミ等が生息しています。



1：全景 2：落葉広葉樹林 3：登山口 4：河畔林

しろ とり やま
⑨ 白鳥山 所在地：北設楽郡設楽町津具字白鳥他

—水晶と特異な植生—

昭和54年3月2日指定

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
5.71	7.90	13.61

白鳥山は北設楽郡設楽町津具地区の東南部、津具川の左岸にある標高968mの山です。

中腹まではスギ・ヒノキの植林地ですが、上部は急傾斜地が多く天然林が残されています。

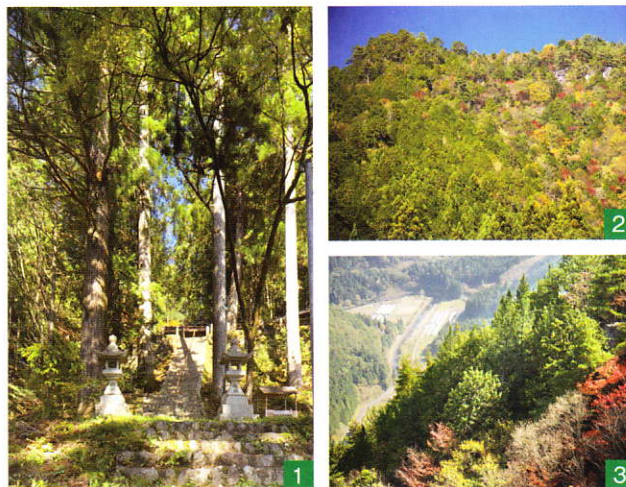
白鳥山は全山が石英質の片麻岩からなっており、ところどころに空洞があり、そこには多くの水晶ができています。このような結晶のできている空洞を晶洞といいます。

山腹にある白鳥神社に向かう参道沿いにはヒノキ、ウラジロガシ、ヤブツバキなどの常緑樹が生育しており、標高850m以上の急傾斜地には、モミ、ツガ、コウヤマキ等の針葉樹がよくみられます。

また、オオミミゴケ、タチハイゴケはこの地域でのみ確認され、イワダレゴケやコセイタカスギゴケ等はこの地域を含む限られた場所でのみ確認されており、これらは県の希少種となっています。

このような寒地性のコケは亜高山帯針葉樹林の林床に見られるもので、標高1000m以下のこの地域に生育するのは珍しいものです。

なお、山麓にある白鳥神社舞庭では、鎌倉・室町時代から続く国指定重要無形文化財となっている花祭が行われています。



1：白鳥神社
 2：全景
 3：コウヤマキ群落
 4：ヌタ場
 5：片麻岩

10 茅原沢

所在地：岡崎市茅原沢町及び秦梨町

昭和59年3月28日指定

一県内稀なヒメシャラの自生地一

面積 (ha)

普通地区(全域)
14.36

茅原沢自然環境保全地域は、岡崎市の東部、乙川と男川の合流地点付近、乙川左岸の茅原沢神明宮とその北側にあります。

この地域の標高40mの川岸から110mの尾根の間は、アラカシを主とする常緑広葉樹とコナラ等の落葉広葉樹が混じった天然林となっています。

このように標高の低い地域の林にもかかわらず、南側にはヒメシャラが多数生育しており、県内ではあまり見られない特色のある樹林となっています。ヒメシャラは樹皮が赤褐色で皮が落ちた跡は灰白色になるので、その存在はよくわかります。

また、川岸の林床にはムヨウランやアキノギンリョウソウといった腐性植物や、尾根から川岸近くの林床にはササユリやシシガシラ等がみられます。

貝類のツムガタモドキギセルは県内では茶臼山や豊田市内にある伊熊神社にみられますが、この地域はその分布の南限になっています。

また、乙川はゲンジボタルの発生地として国の天然記念物に指定されており、この地域の植生はゲンジボタルの生息環境を保全する意味からも重要な役割を果たしています。

なお、茅原沢神明宮社叢は市指定天然記念物になっています。



1：境内のヒメシャラ 2：茅原沢神明宮
3：社叢入り口 4：全景
5：ヒメシャラの樹幹

11 壱町田湿地

所在地：知多郡武豊町字壱町田

平成11年2月26日指定

一知多半島の丘陵地にある湧水湿地一

面積 (ha)

特別地区	普通地区	合計
1.13	0.10	1.23

壱町田湿地は知多郡武豊町北西部のなだらかな丘陵地にあります。

湿地を含むこの区域は、周辺の丘陵地が昭和57年から農地として開発されることになったため、町有地として保全されました。

この湿地は泥炭層がほとんど無い砂礫の湧水湿地で、7種類の食虫植物やシラタマホシクサなどの東海丘陵要素植物群が見られるなど豊かな自然環境が残っています。

湿地の周囲をヒサカキ等の樹林が囲み、湿地には減少傾向が著しく絶滅危惧種となっている食虫植物であるシロバナナガバノイシモチソウやミミカキグサの他、ノグサ、ミカワシンジュガヤなどが見られます。

また、寒冷地性のイワショウブ、ウメバチソウも見られます。

その他蘚苔類のオオミズゴケも生育しています。

昆虫では、水辺の昆虫ヒメタイコウチが見られるほか、湿地を囲む樹林にはハルゼミが生育しています。

なお、この湿地は昭和59年に県の天然記念物に指定されています。



1：全景 2：ミミカキグサとムラサキミミカキグサ
3：天然記念物標示 4：シラタマホシクサ

やま なか はち まん ぐう
12 山中八幡宮 所在地：岡崎市舞木町字宮下
 ー常緑広葉樹林の社叢とヒメハルゼミの生息地ー

平成16年2月27日指定

面積(ha)

特別地区	普通地区	合計
1.55	3.95	5.50

山中八幡宮は岡崎市南東部の舞木町に位置しており、三河一向一揆で追われた徳川家康が、この地の洞窟に隠れて難を逃れたと言われています。

山中八幡宮の社叢は、ツブラジイを主とする常緑広葉樹が覆う標高106mほどの小高い丘になっています。この社叢の林床には愛知県の準絶滅危惧種となっているルリミノキ、オオフユイチゴなど暖地性の植物が生育しています。山門前のクスノキの巨木は岡崎市の天然記念物に指定されています。

また、「ヒメハルゼミの生息地」として市の天然記念物に指定されているほか、昆虫ではオオゴキブリが生息しています。

ツブラジイの常緑広葉樹林の社叢は郷土景観を代表するものと言え、伐採後、天然更新により再生したもので、残された天然林としては県内では比較的規模の大きいものです。

ヒメハルゼミは生きた化石といわれ、この地域が常緑広葉樹林で覆われていた頃から生き残っているもので、現在では当時の林相が残されている地域のみで生息する昆虫です。またオオゴキブリは分布が常緑広葉樹林に限られており、その指標種として扱われています。



1：全景 2：ツブラジイ 3：クスの巨木 4：山中八幡宮

かい しょ もり
13 海上の森 所在地：瀬戸市海上町、広久手町、
 屋戸町及び吉野町の各一部
 ー東海丘陵要素植物群がみられる里山林ー

平成18年3月24日指定

面積(ha)

特別地区	普通地区	合計
48.60	79.25	127.85

海上の森は瀬戸市南東部の丘陵地に位置し、その一部が平成17年に開催された、「自然の叡智」をテーマとする愛知万博の瀬戸会場となりました。

この地域は伝統的な地場産業である窯業のための採薪・採土による荒廃と植林による復旧を繰り返してきました。現在は、人工林や二次林からなる里山が形成され、豊かな自然環境を有しています。

この海上の森の西側の一部が自然環境保全地域となっています。

この地域は地下水の湧出による貧栄養湿地が多く見られ、シデコブシなどの東海丘陵要素植物群と呼ばれる植物を始めとする希少な動植物が見られます。これらの湿地は、規模は小さいものの谷に沿って多数分布し、都市近郊での連続的な分布状況は県内でも特異なものといえます。

北部の篠田川流域のサクラバハンノキのまとまりのある大きな分布は、県内でも特異的な存在です。屋戸川・寺山川流域にはトウカイコモウセンゴケ・ミミカキグサなど、貧栄養湿地の特徴的な植生が見られます。

また、林内にはギフチョウが、河川や湿地にはホトケドジョウやハッチョウトンボなどが生息しています。



1：貧栄養湿地 2：ハッチョウトンボ 3：シデコブシ
 4：ギフチョウ 5：ミミカキグサ

14 ^{とう ごく さん} 東谷山 所在地：名古屋市守山区大字上志段味字東谷の一部
 ー大都市周辺に残る豊かな自然環境ー

面積 (ha)		
特別地区	普通地区	合計
12.40	15.27	27.67

名古屋市東北部に位置する東谷山の北側には、自然度の高い常緑広葉樹林が残されています。また、南部の湿地にはシデコブシの他東海地方を特徴づけるシラタマホシクサ、シマジタムラソウ、サギソウなどが生育しています。

このほかにも国や県、名古屋市のレッドリストに記載される植物などが多く生育しています。

このように、この地域は名古屋市内という大都市の中にありながらも豊かで優れた自然が残された地域です。

この地域の特徴としては、北部にはスダジイ、アラカシが優先する名古屋市内では規模の大きい常緑広葉樹林がその一つとなっています。またこの林内にはヤブツバキ等の常緑広葉樹やタカノツメ等の落葉広葉樹なども見られます。

また、湿地にはヒメタイコウチが生息しているほか、林内にはムササビなどが生息しています。

この地域周辺の丘陵地は砂礫を含んだ粘土質で、雨水の浸透を妨げ南部には希少種が生育する貧栄養湿地を形成しています。

この地域は標高198mと名古屋市内の最高所となっており、頂上には尾張戸神社の社が建っています。



1：全景 2：サギソウ
3：シラタマホシクサ 4：尾張戸神社 5：シデコブシ

15 ^{とりで やま} 砦山 所在地：北設楽郡豊根村坂字場字広野の一部
 ーモミ・ツガ・ヒノキの巨木が並ぶ 伝説の地ー

面積 (ha)	
特別地区(全域)	
3.36	

砦山は、茶臼山を源流とする坂宇場川と日余沢にかこまれた区域で、後醍醐天皇の孫にあると伝えられている尹良(ゆきよし)親王が砦を築いたところと言われています。

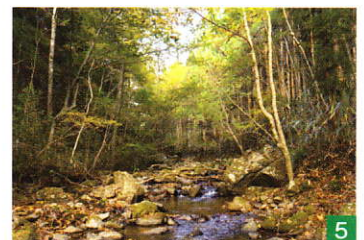
山頂部には祠跡が見られ、地域の人々が祭礼をするなど、大切にされて来たため、人の手が入ることが少なく自然林に近い林が残されており、モミ・ツガ・ヒノキの巨木や河畔林など優れた生態系が成立しています。

周辺には植林地が多くある中で、人里に近い場所でこの地域の自然植生をうかがい知ることができる数少ない場所となっています。

この地の特徴としては、尾根部のツガ・ヒノキの巨木群のほか、中腹にはアセビも見られます。また、川岸にはイヌシデ・ミズメなどの河畔林や合流部にはコナラ等の落葉広葉樹林が見られます。

坂宇場川沿いの中腹の一部がスギの植林地となっていますが、近年人の手が入ることが少なく、天然林的な要素が見られ自然の遷移の過程をみることができます。

中腹から尾根にかけてクロソヨゴやアクシバ、腐生植物のギンリョウソウが見られます。また、希少な動植物としてヤシャビシャク、カジカガエルなどが確認されています。



1：ヒノキ林
2：全景
3：祠
4：ヒノキの巨木
5：河畔林